



デュエット

Vol.40

2019.3

デュエット編集協力員特別企画

平成30年12月、デュエット編集協力員2名が市長就任から1年となる畠山稔市長へインタビューを行いました。男女共同参画に関する市長の率直なご意見や公私にわたった質問にお答えいただきました。



——市長の一日を教えてください。

健康第一をモットーに1日10,000歩を意識しています。市長になってからは歩くことが少なくなりがちなので、朝の1時間のウォーキングを続けています。市役所での業務後も市長として会議や懇談会などへの出席があり、あっという間に一日が過ぎていきます。

——市長のワークライフバランスはいかがですか。

プライベートの時間を作るのはとても難しいですね。先ほど平日を一例として挙げましたが、土日にも市内各所でイベント等の開催があり、家を空けることが多いです。家のことにはなかなか手が回らず、妻には苦労をかけていると思います。



畠山 稔 市長 インタビュー



—ご家庭で料理はされますか。

妻が仕事の日、野菜炒めや目玉焼きなど子どもの食事を作り食べさせていましたし、空手の合宿でも食事を作ることがありました。今は惣菜の種類もありますし、おいしい冷凍食品も多いのでうまく活用しています。

—職場や家庭とのコミュニケーションにおいて、心がけていることはありますか。

コミュニケーションの基本ですが誰にでも挨拶をすることです。職場でも家庭でも常に気持ちのよい挨拶をするようにしています。また、家庭ではできるだけ食事を一緒にとり、話す時間を作るように心がけています。家族との会話ではもっぱら聞き役になることが多いですね。

—女性の社会進出が進んでいます。何か変化を感じてはありますか。

ベビーカーや抱っこひもで子どもを連れているお父さんをよく見かけるようになりました。また、『イクメン』や『イクボス』という言葉が生まれ、少しずつですが男性の育児に関する考え方が変わってきたように思います。

—上尾市男女共同参画計画では「みとめ合い 思いやり ともに輝く！」を基本理念としていますが、実現に向けて市が具体的に取り組んでいることは何ですか。

平成30年4月から「あげお版ネウボラ」※の一環として「子育て世代包括支援センター」を開設しました。市では妊娠届出の機会などを活用し、妊婦さんと面談した上で、妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じています。

上尾市における世帯の65%は「夫婦のみ」および「夫婦と子供」からなる核家族です。昔とは異なり、祖父母や近隣に子育て等に関する悩みを気軽に相談しづらい状況にあります。上尾市が「子育て世代が頑張れる街」となるよう、今後さらなる支援の充実に努めていきたいと思っています。



左から 松澤副市長、畠山市長、デュエット編集協力員2名

※「ネウボラ」とは、フィンランド語で「アドバイスの場」を意味するフィンランド発祥の子育て支援体制のことです。

あげお版 ネウボラ とは？

子育て世代包括支援センター（東保健センター内・子ども支援課内）

妊活から子育て期にわたり切れ目ないサポートを行うため開設
助産師・保健師など専任のコーディネーターが随時相談を実施

妊活

妊娠

お誕生

出生～3か月頃

4か月頃～1歳頃

1歳～

就学前

このとり相談



母子健康手帳の交付・妊娠期の相談

- ・生理が遅れてる
- ・出産するか迷っている
- ・妊娠中は何に注意したらいいの？
- ・初めての妊娠で不安 など

出産後の相談

- ・赤ちゃんが泣きやまない
- ・赤ちゃんのお世話は、上手にできる？
- ・母乳は足りてるかな？ など

子育て期の相談

- ・身近に助けてくれる人がいない
- ・イライラして子どもにあたっちゃう…
- ・予防接種ってどう受けるの？
- ・ママ友が作れるイベントないかな… など

平成31年1月19日、富士見小学校にて冬のレクリエーション大会が行われました。寒空の下、親父の会メンバー17名と子どもたちや先生方など100名ほどが集まりました。子育てや地域の活動は特に女性に偏りがある一方で、親父の会メンバーとして活躍している男性たちの様子を取材しました。

親父たちの タイムスケジュール

7:30 集合・準備開始

芋煮汁チーム

①材料を洗う
早朝の水は冷たそう



②材料を切る
里芋・大根・人参・ネギ・ごぼう・
こんにゃく・豚肉…かなり具沢山!



③手打ちうどんを作る
よく混ぜて、捏ねて、麺棒で
伸ばして切って、茹でる。材料
は強力粉・塩・水だけ。



④大鍋を火にかけて湯を沸かす
火力が弱く、1時間以上待っても湯
が沸かず、担当の親父たち焦る!
急遽、家庭科室を借り全ての具材を
茹でて大鍋に戻し出汁と味噌を混ぜ
てなんとか完成!



⑤器に茹でた手打ちうどんを入れ、
味噌ベース芋煮汁をかけて出来上がり!



11:15 全員で芋煮汁を食べる

レクリエーションチーム

受付・カラーコーン・
ホワイトボードの準備



9:00 子どもたちの受付開始
(4チームに分かれて対抗戦!)



9:15 レクリエーションスタート

- ・親父の挨拶
- ・準備運動
- ・しっぽとり
- ・宝探しトランプ
- ・長縄跳び
- ・チーム対抗
リレー



!!!

芋煮汁作りでは、慣れた手つきで材料を切っている方が多くて驚きました。うどんも一から手作り。家庭でもうどんを一から作ることはなかなかないので、手が込んでいるなあと感心。

一方、親父の会 vs 先生方との長縄対決は、昨年に引き続き、親父の会が勝利しました! 若い先生方には負けてられないと、真剣な親父たちの顔が印象的でした。3種目終了しても芋煮汁が出来上がらず、急遽リレーをすることに。チームカラーのはちまきの準備ができず、バトンを誰に渡せばいいのか戸惑う子が…笑。

体をたくさん動かしてお腹ペコペコの子どもたちは、「おいしい!」「うどんもちもち!」「おかわりないの~!」と親父たちの芋煮汁に大満足でした。

富士見小学校
親父の会
とは

発 足：平成12年

目 的：親父の活躍の場を作ること

主な活動：①1dayキャンプ ②柏座夏祭りへの参加 ③バザーへの参加 ④冬のレクリエーション
※各イベントの前に打ち合わせがあり、年に数回飲み会も行っている

取材の感想：日頃仕事で忙しい親父たちにとって、親父の会の活動に参加することは、子どもたちや先生方、また地域の人たちとの交流を深めていくきっかけになっていると感じました。

防災体験学習施設『そなエリア東京』を見学

平成30年10月30日、デュエット編集協力員で、東京都江東区有明の東京臨海広域防災公園そなエリア東京の見学に行ってきました。そなエリア東京とは、そな(備える)エリア(場所)という意味でつけられた造語です。“災害をイメージする力”と“対応力”を身につけることで災害の備えにつながる場所として、防災体験や防災に関する学習ができます。



72時間。これは国や自治体などの支援が整うまでにかかる時間の目安となっており、この間は自力で生き残らなければなりません。体験ゾーンではクイズに挑戦しながら、ビルの倒壊、飲食店の火災、自宅内の家具倒壊など、被災した街における危険な箇所を確認することができました。避難所の再現では、間仕切りを使って狭い空間で効率良く生活できるよう工夫しており、災害トイレも種類が多くあり驚きました。

学習ゾーンでは、備えておくべき物はもちろん、チラシを食器にしたり、新聞紙をスリッパにしたり、日用品を防災グッズとして活用できる方法などを学びました。施設内のあるパネルには「自分が助からないと、となりの人を助けられない。」とありました。72時間を生き抜くには知恵が必要であり、いつどこでも災害は起こりうることで備えが大事であると感じました。



家具固定あり



家具固定なし

昼食はすべて非常食の親子丼・味噌汁・漬物を食べました。そのほか水だけで戻るアルファ米にはえびピラフや炊込みご飯、チキンライスなどの様々な種類があり、一度家族で試してみたいと思います。



防災非常食

女性のための相談 を行っています

男女共同参画推進センター(市役所第3別館1階)では、自分の生き方や家族内の悩み、離婚問題、DV(暴力を振るわれる、暴言を吐かれる)など、さまざまな悩みを抱えている女性のために相談室を開設しています。いずれも女性のカウンセラー・弁護士・相談員が対応します。

☎048-778-5110

予約受付時間 月～金曜日
午前8時30分～午後5時

秘密厳守

相談無料

※上尾市男女共同参画推進センターでは配偶者暴力相談支援センター業務を行っています。

女性のための相談 女性カウンセラーによる相談

日時 毎週水曜日(祝日・年末年始を除く)
午前10時～正午・午後1時～4時

相談時間 50分間 ※面接・電話相談可

対象 市内在住・在勤の女性

【予約制: 相談月の前月1日から受付】

女性のための法律相談 女性弁護士による相談

日時 毎月第3火曜日 午後1時～4時

相談時間 30分間 ※面接相談のみ

対象 市内在住の女性

【予約制: 相談月の前月1日から受付】

女性のためのDV電話相談 女性相談員による相談

日時 毎週月・木曜日(祝日・年末年始を除く)
午前10時～正午・午後1時～4時

【予約不要】

編集後記

平成最後のDuetとなります。今号では初めて編集協力員による市長インタビューが実現し、普段なかなかお聞きできないようなことにも快くお答えいただきました。そのほか、上尾市を飛び出し、県外の防災施設の見学など広く活動ができたと思います。日常生活の中で常にアンテナを張り、次号ではさらにパワーアップした情報をお届けします。

(編集協力員: 大江育枝・大成達夫・武田洋子)

■本紙へのご意見・ご感想をお待ちしています(住所、氏名、電話番号、性別、年代をご記入ください)。